

南三陸の海に春到来 イサダ水揚げ

3月13日(木)、宮城県内でイサダが解禁され、志津川漁港に桜色のイサダが水揚げされました。

イサダは、体長3センチほどの小エビに似たオキアミの一種で、主に養殖魚のえさや釣りのえさに使用されますが、加工食品としても流通しています。

最初に入港した地元漁船の乗組員は、「一番船となり、うれしいですね。今日の漁場は歌津沖30分くらいのところ。魚影はまだ薄いようですが、昨年同様の高値を期待します。」と話していました。

その後も入港が続き、初日は21隻、111トンの水揚げとなりました。

次々に水揚げされる桜色のイサダ



料理を楽しみながら国際交流

2月17日(日)、南三陸町国際交流協会が主催する「国際交流フェア」が志津川保健センターで開催され、町内在住外国人とその家族、協会会員、一般町民が日本や各国の正月の雰囲気を楽しみながら、交流を深めました。

フェアでは、餅つきを楽しんだ後、持ち寄った中国、韓国、米国の料理が紹介され、参加者全員で味わいました。

また、琴の演奏や日本舞踊が披露されたほか、ゲームもあり楽しい時間を過ごしていました。

テーブルいっぱいにならんだ料理を味わい、交流を深めました



AEDの操作を体験 救命講習会

3月16日(日)、普通救命講習会が志津川保健センターで行われました。

この日集まったのは、志津川婦人防火クラブ連合会の皆さん22人。南三陸消防署員の指導で、気道確保、人工呼吸、心臓マッサージなどの心肺蘇生法を学びました。また、公共施設などに設置されているAED(自動体外式除細動器)の操作方法を体験。操作手順を声に出して確認しながら、真剣な表情で取り組んでいました。



万が一に備え、AED操作による救命処置を学ぶ

幼年消防クラブが 火災予防を呼びかけ

春季火災予防運動の一環として2月28日(木)、名足保育園の子どもたちによる幼年消防クラブ職場訪問が行われました。

訪問したのは、名足小学校と民宿、南三陸町老人福祉センターの3事業所。

ハッピー姿で拍子木を鳴らしながら訪問し、チビッコ消防隊の歌、幼年消防クラブの誓いのことばを披露した後、火の用心絵馬を贈って火災予防を呼びかけました。



拍子木を鳴らしながら「火の用心」と元気に呼びかける園児

ヤマガンを植樹する山の神平地区のみなさん

「ヤマガンの森」で観光振興を

3月23日(日)、入谷山の神平地区と歌津弘川地区を結ぶ坂の貝峠の近くで、ヤマガンの植樹が行われました。ヤマガンとは、ミズキ科の「ヤマボウシ」の地方名で、初夏に白い十字の花を咲かせる落葉高木です。

坂の貝峠を通る農道は、現在「県営ふるさと農道緊急整備事業」により整備中で、完成すれば、「ひころの里」や「さんさん館」から田東山へ結ぶ観光振興道路としても利用されることから、地元の山の神平地区(九区)の皆さんが、観光客との交流と地域おこしのため、入谷地区を一望できる場所を「ヤマガンの森」として、自生木50本の移植と300本の苗の植樹を行ったものです。また、八幡川の源流にあり、隣接する「ブナの森」(漁協青年部と地域が協力して整備)とともに志津川湾の環境保全にも効果が期待されます。

今後は、地域の皆さんが中心となって「ヤマガンの森」に東屋を整備し、また農道沿いに桜を植樹する予定です。



ひころの里 春の彩り

3月1日(土)、2日(日)の2日間、「ひころの里」シルク館を会場にシルクフラワーフェスタが開催されました。色鮮やかな繭花の鉢物などの展示即売が行われ、期間中たくさんの人出でにぎわいました。

繭花のコーナーには、梅やサツキなど、見事な鉢植えが並べられ、会場は春の彩りで飾られました。

また、隣接する松笠屋敷では「おひなさま展」が開催され、地域の家庭で代々受け継がれているひな人形や、子どもたちの手作りひな人形などが展示されました。

華やかな繭細工を熱心に観賞する来場者

